

館内企画展2015年度

平和祈念展示資料館

2015年度

2015年12月1日

企画展「"うた"からみる兵士・抑留者・引揚げの想い」

日時：平成28年1月5日(火)4月24日(日)

会場：平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



2015年9月14日

企画展「小説にみる女性たちの引揚げ」

日時：平成27年9月29日(火)～12月27日(日)

会場：平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



2015年5月28日

企画展「抑留者と家族をつないだ言葉―葉書に託した想い―」

日時：平成27年6月23日(火)～9月27日(日)

会場：平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



2015年4月2日

戦後70年特別交流展「知覧からの手紙」～鹿児島県知覧特攻平和会館パネル展～

日時：平成27年4月21日(火)～5月24日(日)

場所：平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



平和祈念展示資料館では、第二次世界大戦における、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、国民の理解を深める機会を提供するための活動のひとつとして、他館と連携した交流展を行っています。

この度は、鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館と連携し、「戦後70年特別交流展」を実施します。知覧特攻平和会館では、沖縄で行われた陸軍特攻作戦で亡くなった特攻隊員1,036名の遺影、遺書、遺品等を展示しています。この交流展では、知覧特攻平和会館が所蔵する資料の中から、特攻隊員たちが書き残した遺書や手紙等をパネルと関連資料で紹介します。



日 時 平成27年4月21日(火)～5月24日(日)
午前9時30分～午後5時30分 (入館は午後5時まで)

会 場 平和祈念展示資料館 企画展示コーナー

■映画・ドキュメンタリー上映会■

映画「紙屋悦子の青春」

終戦間近の鹿児島を舞台に、海軍航空隊に所属する2人の若者と、純朴な女性との切ない恋と友情を描いた作品。(111分)

監督：黒木和雄 主演：原田知世/2006年

日時：4月25日(土)、5月10日(日)、5月23日(土) 各日午後2時～

ドキュメンタリー「塔は黙して語らず 特攻"義烈空挺隊"の真実」

航空機及び軍事施設を破壊して基地を制圧する作戦を行った義烈空挺隊の真実を様々な資料から検証したドキュメンタリー作品。平成10(1998)年JNNネットワーク協議会報道部門奨励賞。(47分)

製作：MRT宮崎放送/1998年

日時：4月26日(日)、5月9日(土)、5月16日(土)、5月24日(日) 各日午後2時～

■講話会■

知覧特攻平和会館語り部講話会

知覧特攻平和会館で活躍されている知覧町出身の語り部・川床剛士さんが来館し、特攻の歴史的背景と特攻隊員の遺書・手紙等の特色について解説します。(約40分)

日時：4月29日(水・祝) 午後1時～/午後3時～

4月30日(木) 午前10時～

◎川床剛士(かわとこ たけし)さん

昭和15(1940)年8月生まれ。5歳で終戦を迎える。

平成12(2000)年10月から知覧特攻平和会館の語り部として従事。

企画展「抑留者と家族をつないだ言葉―葉書に託した想い―」

俘虜用郵便葉書とは、ソ連から抑留者に支給された、主に赤十字社を經由して故郷とやり取りができる往復葉書です。ソ連側による検閲があったため、葉書には、抑留生活の実態や抑留先の詳しい所在地を書くことができないといった、さまざまな制約がありました。しかし、その一方で、抑留者や残された家族の心情や、抑留者の家族が当時置かれていた状況などを今に伝えています。今回の企画展では、俘虜用郵便葉書とともに、葉書の内容に関連した、防寒具や『日本新聞』などの資料を展示し、戦争が終結したにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境の中で過酷な強制労働に従事させられた約57万5千人に及ぶ戦後強制抑留者の方々の労苦を紹介します。



日 時 平成27年6月23日(火)～9月27日(日)
午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
休館日：7月13日(月)、8月23日(日)

会 場 平和祈念展示資料館 企画展示コーナー

◎会期を前期と後期に分け、一部展示替えを行います。

■前期：6月23日(火)～8月7日(金)

■後期：8月8日(土)～9月27日(日)

■ギャラリートーク■

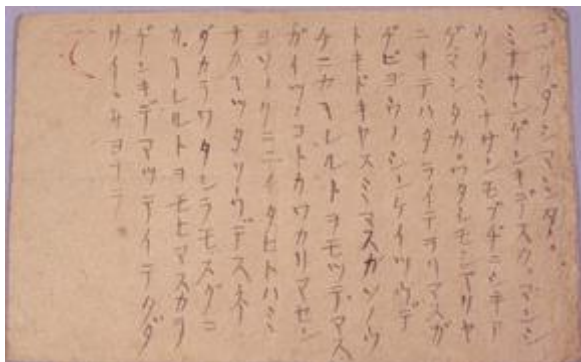
学芸員による展示解説を行います。

企画展の見どころや展示資料にまつわるエピソードを紹介します。

日時：6月27日(土)、7月11日(土)、9月26日(土)

各日午後2時～(約30分)

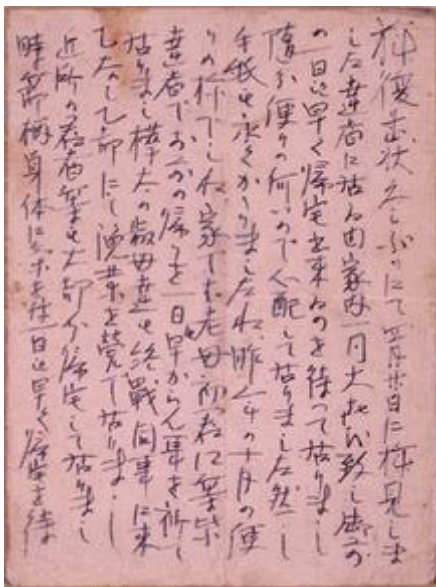
会場：平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



抑留者が家族に宛てた葉書（前期）



『日本新聞』第79号（前期）



家族が抑留者に宛てた葉書（後期）



「望郷」より（後期） 斎藤邦雄

企画展「小説にみる女性たちの引揚げ」

敗戦によって外地での生活のよりどころを失い、身に危険が迫る過酷な状況の中をくぐり抜けてこられた約320万人におよぶ「海外からの引揚者」の方々がいます。今回の企画展では、満州(現・中国東北部)からの引揚げ体験を基に書かれた小説『流れる星は生きている』(藤原てい著)および『朱夏』(宮尾登美子著)を取り上げ、そこに登場する若い母親の姿に焦点を当てます。また、当資料館が所蔵する女性の引揚者に関する実物資料を通して、終戦後の混乱の中、着る物も、食べる物も、心休まる場所もない状況で日本へ引き揚げてきた女性たちの労苦を紹介します。



日 時 平成27年9月29日(火)～12月27日(日)

9:30～17:30 (入館は17:00まで)

休館日: 10月26日(月)、11月24日(火)

会 場 平和祈念展示資料館 企画展示コーナー

◎会期を前期と後期に分け、一部展示替えを行います。

■前期: 9月29日(火)～11月13日(金)

■後期: 11月14日(土)～12月27日(日)

関連イベント

■引揚げ体験者による語り部お話し会■

引揚げ体験者が自身の体験を語ります。

日 時: 【定期語り部お話し会】10月18日(日)、11月15日(日)、12月20日(日)

【秋の特別語り部お話し会】11月21日(土) 手塚元彦さん

11月22日(日) 福岡澄子さん

11月23日(月・祝) 加藤正喜さん

各日: 14:00～(約60分)

会 場: 平和祈念展示資料館 ビデオシアター

■ギャラリートーク■

学芸員による展示解説を行います。

企画展の見どころや展示資料にまつわるエピソードを紹介します。

日 時: 10月10日(土)、11月14日(土)、12月12日(土)

各日: 14:00～(約30分)

会 場: 平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



夫のマントの切れ端で作成した子ども用手袋



引揚者手作りの人形



乳飲み子を運ぶために使った柳行李



収容所で配布された母娘の名札

企画展「"うた"からみる兵士・抑留者・引揚者の想い」

今回の企画展では、詩歌や音楽に共通する“うた”というキーワードから、兵士、抑留者、引揚者の想いに光を当てます。

“うた”は、どんな時も人々と共にありました。“うた”に刻まれた想いを、未公開資料を中心に紹介します。

日 時 平成28年1月5日(火)～4月24日(日)
9:30～17:30 (入館は17:00まで)
休館日: 1月25日(月)、2月7日(日)、3月28日(月)

会 場 平和祈念展示資料館 企画展示コーナー

◆会場には展示資料と関連する音楽が聴けるコーナーがあります◆

●曲名(一部紹介)

「月月火水木金金」

土日休日を返上して特訓する日本海軍の歌。

昭和15年発表

「異国の丘」

吉田正が作曲した抑留者の愛唱歌。

昭和23年発表

「異国の丘女性偏」

引揚者の藤原ていが作詞。映画「流れる星は生きている」の主題歌。

昭和24年発表

◎会期を前期と後期に分け、一部展示替えを行います。

■前期: 1月5日(火)～2月26日(金)

■後期: 2月27日(土)～4月24日(日)

■ギャラリートーク■

学芸員による展示解説を行います。

企画展の見どころや展示資料にまつわるエピソードを紹介します。

日 時 1月16日(土)、2月13日(土)、3月12日(土)、4月9日(土)

各日: 14:00～(約30分)

会 場 平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



ビール瓶や空き樽を楽器にして
雑音楽団を結成した兵士たち(通期)



「一大事とは今日只今の事なり」と彫られた
抑留者の手作りスプーン(通期)



シベリアで抑留者が結成した
「伊玉劇団」の団旗(後期)



引揚船上で催された
初代平和ラッパさん夫妻による慰安会(前期)